

# 権太夫川水門整備説明資料

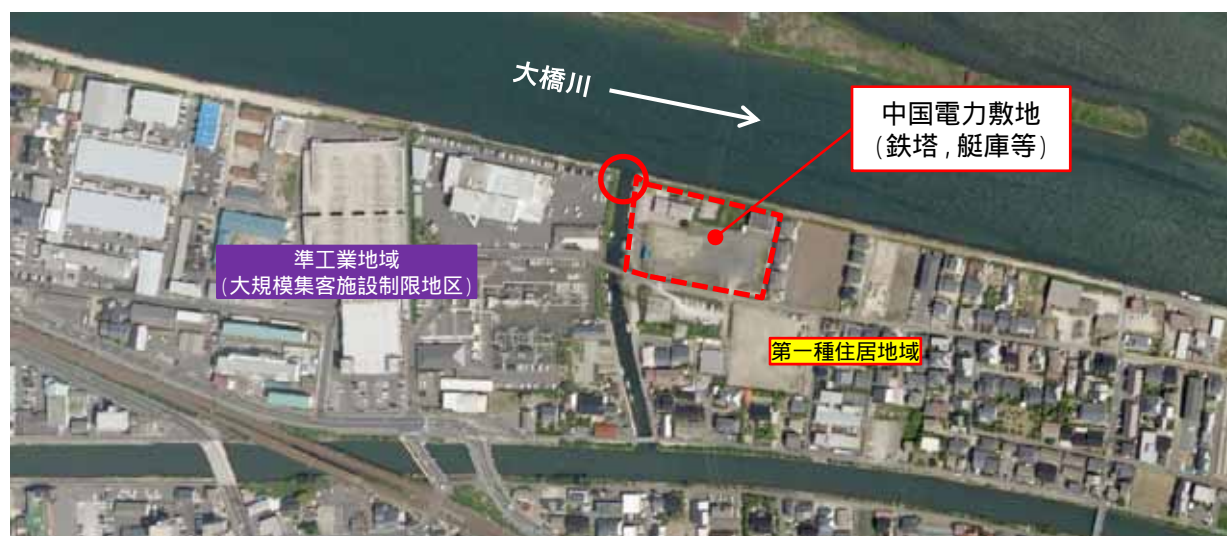


平成26年10月31日  
国土交通省 出雲河川事務所

## 条件 : 周辺の土地利用状況

### 周辺の土地利用状況

- ・ 権太夫川水門は、「第一種住居地域」の端部に位置し、「準工業地域（大規模集客施設制限地区）」との境界に位置している。
- ・ 「第一種住居地域」地域ではあるが、隣接する土地は中国電力の敷地（鉄塔，艇庫等）となっている。





## 条件：権太夫川水門の計画

水門・築堤護岸（管理用通路）

< 位置 >

- ・大橋川と権太夫川の合流点付近に配置する。

< 機能：外水防御施設 >

- ・洪水時の大橋川から天神川への逆流防止施設として、権太夫川に水門を配置する。

< 施設：築堤護岸、水門 >

- ・平常時は、漁船及びレガッタボートが通航するため、ゲートは「開放」し、洪水時のみ「閉鎖」する。



# 基本事項: 水門の配置計画

## 周辺施設への影響

### 〔権太夫川右岸〕

#### ・ 舟運施設への影響

大橋川合流部近傍に、舟運施設が存在する。舟運施設は、浮き棧橋形式の「船着き場」と引揚げクレーン」からなる規模の大きなものである。代替地を含め移動は難しく、水門の配置にあたり舟運施設に影響のない配置・施工計画が必要となる。

### 〔権太夫川左岸〕

#### ・ 駐車場への影響

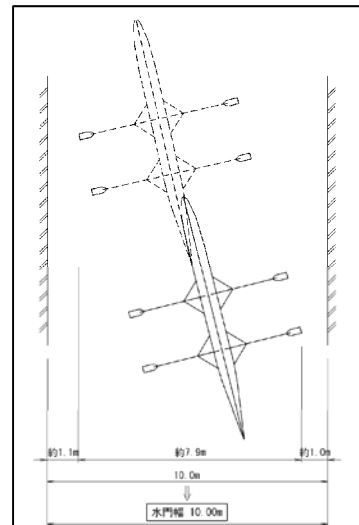
大橋川合流部の左岸部には、企業の駐車場が存在する。用地買収は最小限に留める必要がある。  
奥行幅が最少となる「引上式ゲート」を採用する。

#### ・ 漁船及びレガッタボートが航行への配慮

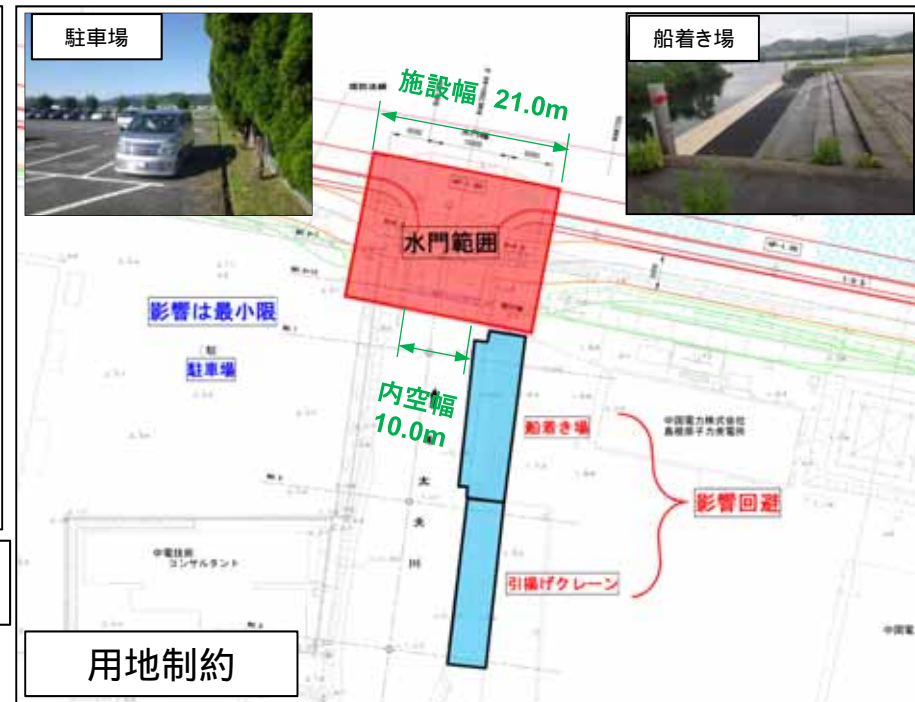
最大規模の船舶であるレガッタボートの通航に必要な内空幅10mを採用



(右岸)船揚場【船着き場及び引揚げクレーン】  
(左岸)駐車場



【内空幅の検討】  
レガッタの通航に必要な10mを確保



## 景観検討の視点場

### 視点場の設定と景観への影響

#### ・遠景

遠景を評価するための視点場として、人の通行のある「対岸」と「松江第五大橋」を設定。  
鉄塔、背後の建物(艇庫や事務所)と一体の景観となり、一般的なタイプ・塔タイプの門柱とともに大きな景観の変化はない。

#### ・近景

大橋川沿いに市道の計画があること、堤内側に市道があることより、「計画市道」と「水門背面」を視点場として設定。

背後に建物(艇庫や事業所)があり、ひらけた空間でないことや、それらの建物との高さに大きな違いがないため、景観に大きな影響はない。

一般的なタイプの門柱は外付け階段であるのに対し、塔タイプの門柱は階段内蔵であることより、景観面では有利となる。



## 景観検討の視点場

### 遠景からの景観

#### 対岸からの景観



#### 松江第五大橋からの景観



鉄塔、背後の建物(艇庫や事業所)と一体の景観となり、大きな景観の変化はない。



# 水門:ゲート形式

	引上式ゲート	ライジングセクターゲート	マイターゲート <sup>1</sup>	横転式ゲート <sup>1</sup>
制約条件	 <p>一般的なタイプ</p>  <p>塔タイプ</p>			
< 制約条件 > 平面寸法	奥行き × 幅 11.8m × 21.0m	奥行き × 幅 15.8m × 23.0m	奥行き × 幅 19.0m × 22.0m	奥行き × 幅 15.8m × 23.0m
< 制約条件 > 周辺用地への影響				
< 制約条件 > ゲート操作の確実性				
< 制約条件 > 通船機能の確保				
< 制約条件 > 維持管理性				
コスト	一般タイプ : 1.0 塔タイプ : 1.05	1 . 2 8	1 . 1 8	1 . 3 9
総合評価				

<sup>1</sup> : 施工実績はあるが、ゲート操作の確実性が「 」のため、参考に記載しているゲート形式。

水門構造に関して、周辺用地への影響、維持管理も容易であり、制約条件を全て満足できる引上げ式ゲートとする

## 景観の評価 : 対岸からのフォトモンタージュ

遠景からの景観

対岸からの景観

一般的なタイプの門柱構造



塔タイプの門柱構造



鉄塔、背後の建物(艇庫や事業所)と一体の景観となり、大きな景観の変化はない。  
また、一般的なタイプの門柱形式、塔タイプの門柱形式ともに大きな差異は生じない。



## 景観の評価 : 堤内からのフォトモンタージュ

### 水門背面からの景観

一般的なタイプの門柱構造

直上流側の視点



塔タイプの門柱構造

直上流側からの視点



背後に建物(艇庫や事業所)があり、ひらけた空間でないことや、それらの建物との高さに大きな違いがないため、景観に大きな影響はない。一般的なタイプの門柱は外付け階段であるのに対し、塔タイプの門柱は階段内蔵であることより、景観面では有利となるが、周辺の建物が事業所や艇庫であることより、一般的なタイプでも特に景観を悪化させることはない。

堤防天端(市道(計画))からの景観

一般的なタイプの門柱構造



一般的なタイプの門柱は外付け階段であるが、周辺の建物が事業所や艇庫であるため、一般的なタイプでも特に景観を悪化させることはない。

塔タイプの門柱構造



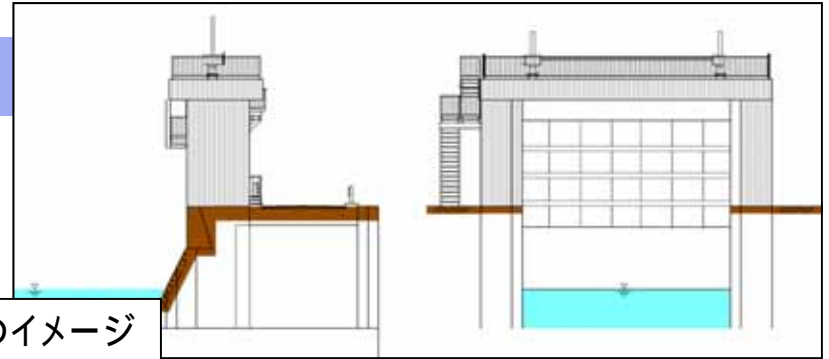
塔タイプの門柱は階段内蔵であるため、景観面では有利となる。

背後に建物(艇庫や事業所)があり、ひらけた空間でないことや、それらの建物との高さには大きな違いがないため、一般的なタイプでも景観に大きな影響はないから、一般的なタイプの門柱構造とする。

# コンクリート表面仕上げ方法

- 化粧型枠（縦リブ）を採用する。
  - ・縦リブにより構造物に引き締まった印象を与える。
  - ・陰影により壁面の明度を抑える。

化粧型枠のイメージ



	コンクリート打放し	コンクリートはつり	化粧型枠(縦リブ)
使用事例			
特徴	・コンクリート面が目立つ。	・コンクリート表面の凹凸により陰影が生じ、明度を抑える事が出来る。	・型枠の凹凸により、コンクリート表面に陰影や模様を付けることで、明度を抑える事が出来る。
コスト	0円/m2(通常) (0. 0) △	表面はつり仕上げ 5,000円/m <sup>2</sup> (上写真 : はつり深さ 4~5mm 程度) (0. 9) △	5,500円/m2 (上写真) (1. 0) ○
評価	表面は通常のコンクリートの仕上げであり、目立つ建築物になる。	他工法に比べ、コンクリート打設後の表面仕上げの作業手間が増す。	縦リブにより引き締まった印象を与える。陰影により、壁面の明度を抑える。